

# 開催報告

## イブニングセミナー

『糖尿病患者療養指導実践のヒ・ソ・ト』

内科部長 夏井 耕之

平成30年10月17日(水)にイブニングセミナーを開催しました。「糖尿病の療養指導」の実践ヒントについて話題提供させていただきました。

当日は院内外を含め38名の先生方にご参加いただき、「今後の診療に活用できる」「今後の診療に役立てたい」とのご意見をいただきました。今後も先生方に役立つ話題提供に努めますので、是非ご参加ください。



## がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会

平成30年10月28日(日)に、「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を開催し、医師や看護師など、院内外を含め24名の方にご参加いただきました。

今年度より開催指針が変更され、「e-learning」を受講後、「集合研修」を受ける形となりました。

「ロールプレイング」や「グループ演習」などを通し、職種の垣根をこえて発言しあうことができ、参加者からは「患者さんへの話し方などが勉強になった」という声を聞くことができました。

ご参加くださった先生方、ありがとうございました。



## 地域医療連携交流会

学術講演Ⅰ / 「悪性疾患に対する消化管ステント留置術の現況と進歩」

消化器内科副部長 松永 心祐

学術講演Ⅱ / 「泌尿器がん治療の最前線」

腎臓・泌尿器科部長 河野 真範

平成30年11月21日(水)に地域医療連携交流会を開催し、院内外を含め81名の先生方にご参加いただきました。会場の参加者からは多くの質問をいただき、大変有意義な講演会となりました。ご参加いただいた先生方ありがとうございました。



# 行事予定

## イブニングセミナー

日時 / 平成31年1月16日(水) 19:30~20:30

講師 / 呼吸器外科部長 松倉 規

内容 / 肺癌を疑って手術したところ、  
癌でなかった症例の検討

日時 / 平成31年3月6日(水) 19:30~20:30

講師 / 耳鼻咽喉科部長 大澤 陽子

内容 / 花粉症シーズンを前に、  
ちょっと役立つ治療のお話

※会場はどちらも福井赤十字病院栄養管理棟3階 講堂

## 地域がん診療研修会

日時 / 平成31年3月1日(金) 19:00~20:00

会場 / 福井赤十字病院栄養管理棟3階 講堂

講師 / 国立がん研究センター 社会と健康研究センター  
検診研究部 検診評価研究室長 / 永田 浩一

内容 / 大腸がん早期診断のために必要な大腸CT検査  
～科学的にそして楽しく考える～

## 地域医療連携課

受付時間 / 平日 8:00~18:30、土曜 8:30~12:30  
TEL 0776-36-4110 (直通)  
FAX 0776-36-0240 (専用)



<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>

e-mail [renkei@fukui-med.jrc.or.jp](mailto:renkei@fukui-med.jrc.or.jp)

連携通信第69号発行 平成31年1月 福井赤十字病院



# Partner

福井赤十字病院連携通信(パートナー)

Japanese Red Cross Fukui Hospital vol.069 平成31年1月発行



「凍晴の朝」撮影 / 検査部 米倉 久剛

# 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。昨年4月に院長を拝命いたしました。旧年中は医療連携で格別のご厚意を賜り、厚く御礼申し上げます。連携医の先生方にはご健勝にて良き年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年、当院は3月に4度目の病院機能評価(3rdG:Ver.1.1)を受審しました。ご存知のように病院機能評価は、準備そのものが病院の質改善への取り組みとなるわけですが、職員の努力により、大きな問題もなく再認定を得る事ができました。その成果は既に着実に日常診療に生かされている事を報告させていただきます。

昨年は第7次医療計画がスタートしたこともあり、我が国の医療界にとっては分岐点の年であったと言えます。今年も当院は一昨

年秋に福井県の医療計画を見据えて策定した「公的医療機関等2025プラン」に基づき、センター化構想を基軸とし、地域の基幹病院として、高度専門医療、高度急性期及び急性期医療を提供しつつ、地域医療支援病院として、地域の先生方との医療連携を更に深化していきます。また、入院前から退院後まで患者さんに寄り添って切れ目のない診療を行っていく体制を整え、今後も地域に寄り添う良質な医療を提供していきたいと考えています。

本年も職員一同、皆様にご満足頂ける医療を目指し努力してまいります。昨年同様、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝と益々のご発展を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



院長 高木 治樹

# + 福井赤十字病院

## 理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

## 基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

# 全てのがんに 高精度放射線治療を



放射線科 部長  
坂本 匡人

放射線治療はがんの治療法の一つで、切除しなくてもがんとその周囲とに強い治療効果を与えることができます。

良い放射線治療には、①がん全体に確実に放射線を当て、②がん以外の部分には放射線をなるべく当てず、③治療を受ける方に体の負担を掛けないことが必要です。

当院の放射線治療センターでは、既に、この3つの要求に非常に高いレベルで応えてくれる高精度放射線治療装置『Vero4DRT™(ペロフォーディーアールティー)』(日立メディコ社)を導入しております(図①左)、それに続いて、2017年9月より、高精度放射線治療汎用機『VitalBeam™(バイタルビーム)』(米国バリアンメディカルシステム社)を新たに導入し(図①右)、これでほぼ全てのがんの高精度放射線治療が可能になりました。

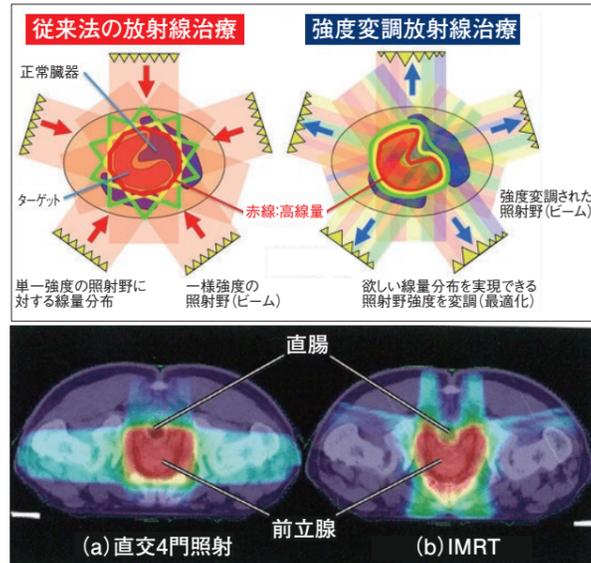
①当院放射線治療センターの放射線治療装置



Vero4DRT

Vital Beam

②IMRTの原理



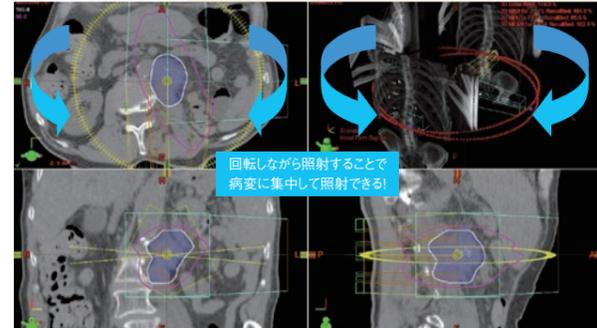
病変や臓器の形によりfitする放射線治療が可能に!

『Vero4DRT』が、比較的小さな病変や、体内で移動する病変を正確に照射するのが得意なのに対し、『VitalBeam』は、広い範囲の病変をまとめて正確に照射することが得意です。例えば、縦隔リンパ節転移のある肺がんや食道がん、咽頭にも頸部にも腫瘍のある頭頸部がん、腹部・骨盤に転移・播種のある外科・消化器科・泌尿器科・婦人科のがんなどの治療にその強みを発揮し、原発巣・転移巣の全てに同時に強度変調放射線治療(IMRT)を行うことも容易です(図②)。

さらに、『VitalBeam』はVMAT(プライマット)と呼ばれるシステムを備えております。VMATとはIMRTの進化形で、装置が数分で患者さんの周囲を回転する間に1回の照射は終了し、患者さんにほとんど負担を掛けずに、がんにはより強力・より均一に放射線を照射しながら周囲の臓器に掛かる放射線は大幅に軽減できるようになりました(図③)。このVMATにより、再手術の難しい術後再発がんや化学療法のみでは制御が困難になった広範囲のがんへの放射線治療が容易になりました(図④)。

『VitalBeam』と『Vero4DRT』と2台の放射線治療装置の併用によって切り拓かれる新たながん治療の可能性にご期待ください。

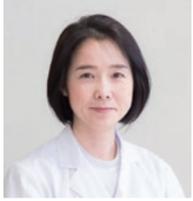
③VitalBeamによるVMAT(回転IMRT)



④VMATでの治療例(子宮頸癌)



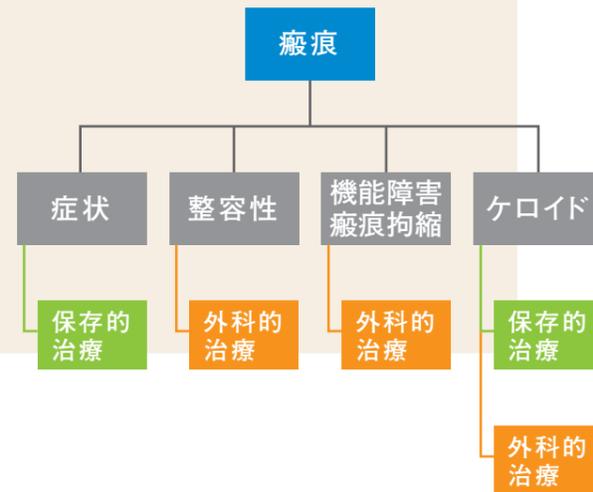
# 瘢痕・ケロイドに対する 当院での治療について



形成外科 部長  
山脇 聖子

瘢痕・ケロイドは日常診療で比較的好く遭遇する疾患ですが、その治療には時に難渋することがあります。今回、当院で行っている瘢痕・ケロイド治療について記載させていただきます。

瘢痕は下記のアプローチを用いて、治療法を選択しています。



症状の改善のみであれば、保存的治療を約1ヶ月行うことで、かなり軽減が得られます。手術を行う症例は、面状の瘢痕を線状瘢痕にすることで瘢痕の面積が減少し、整容性が改善します。拘縮を伴う症例では、瘢痕切除に加えて、拘縮を解除するために、局所皮弁などを併用することで改善が得られます。ケロイドにおいても症状のみの改善を望む症例や病変が小さい症例では保存的治療を行い、比較的大きい病変や感染を伴う症例では手術を選択します。その際には術後放射線治療を追加しています。

保存的治療	外科的治療
圧迫・固定	瘢痕切除
シリコンゲルシート(シカケア®)貼付	Z形成を始めた局所皮弁術
ステロイド含有テープ(ドレニゾンテープ®, エクラプラスター®)	
ステロイド局所注射(ケナコルト®)	

